みんなに愛された西浦駅舎

西浦駅は1936年に開業しました。地域住民や西浦温泉などを訪れる観光客に利用され、西浦の玄関口となっています。駅には待合所を併設した駅舎が設置され、多くの人に利用されてきました。また、映画「ゾッキ」でもロケ地として使用されました。しかし、老朽化に伴い、駅舎が取り壊されることに。駅舎へ感謝の想いを伝えるため、2022年8月にメモリアルイベントを行いました。集まったのは約700人。中には、このイベントに参加するために、蒲郡に帰ってきたという方々も。蒲郡に住んでいた頃の話を楽しそうにしていました。また、駅舎に設置していたメッセージボードには、150ものメッセージが集まりました。「進学も就職もこの駅から出発進行！思い出がいっぱいです。」「これからもこのレトロな駅舎を忘れない！」など、感謝の言葉であふれていました。そして、同年12月に、多くの人に惜しまれながら、73年の長い歴史に幕を閉じました。

歴　史	
1936年	駅開業
1949年	駅舎改築
1998年	無人化
2022年	駅舎解体

interview

西浦在住の２人に話を聞きました

尾﨑　典子

西浦で生まれ育って68年。西浦駅のすぐ近くで「肉のマル利」を営んでいます。駅舎がなくなると聞いたときは、とても寂しかったです。

東幡豆駅・西幡豆駅に続き、駅舎がなくなってしまいました。この辺りは電車もバスも本数が少なく、駅舎がないと不便です。また、西浦駅はまちの玄関口であり、地元の人や観光客など人と人との交流の場所でもあります。だから、市が西浦のために待合所をつくってくれて、とてもうれしいし、楽しみです。待合所を活用して、地域が盛り上がっていくといいな。

朝比奈 航希

古い駅舎が残っているのが西浦駅の魅力の１つでした。駅舎はまちの風景に溶け込んでいて、まちとの親和性がありましたし、あの程よいこぢんまりとした感じも好きでした。

昔住んでいた京都に比べて、今は駅をとても身近に感じています。大きい駅だと誰のための駅なのか意識しにくいけれど、西浦駅は住民のための駅。まちの中心で、まちにとって必要不可欠な場所です。小学生が友達とカードゲームをしたり、お年寄りが散歩の途中に休憩したり、待合所がみんなの集いの場になるといいなと思っています。